

出版情報

書名・件名	昭和61年 労働経済の分析
編集者・監修者	労働省
発行日	

「昭和61年労働経済の分析」(労働白書)の発表に当たって

昭和61年には、前年秋以降の急激な円高の影響が、わが国経済全般に浸透するとともに、経済構造調整への過程が始まりました。これにともなって、労働経済の面では、物価が安定しましたが、雇用情勢は弱含みの状態から次第に悪化し、年後半には製造業を中心に厳しい状況へと移っていきました。政府としては、雇用対策の充実も含め各般の経済対策を実施してきております。

しかしながら、今後、わが国は国際的に調和のとれた経済構造への転換を急がなければなりません。長期的にみて、雇用の安定的な拡大を進めるためにも、こうした調整が不可避と考えられますが、その過程においては、雇用問題が一層悪化することが懸念されます。雇用問題は経済構造調整を進めるに当たっての最大の課題と言えます。

また、新しい経済構造は、これを実現する上でも、勤労者生活の向上につながるものでなければなりません。

本年の労働白書は、こうした経済構造調整における労働経済の諸課題を取り上げております。円高や就業構造の転換にともなう雇用面への影響や問題等を、産業、地域の状況を考慮しつつ分析し、あわせて、勤労者生活上のニーズの実態やその充実の方向についても検討しました。適切な経済成長を確保しつつ、就業構造の円滑な転換ができるよう、きめ細かな雇用対策を推進することが必要ですし、勤労者生活の向上に積極的に取り組むことも必要であります。

この白書が、このような経済構造調整過程における雇用問題や勤労者生活に関する問題について、国民各層の理解を深めるための一助となれば幸いです。

昭和62年7月 平井 卓志 労働大臣